

# Weekly report

MINKABU  
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 今週の注目材料 = 前年比の伸び加速～米消費者物価指数

2021年5月10日

12日に4月の米消費者物価指数(CPI)が発表されます。

3月の米CPIは前月比が+0.6%と2012年8月以来となる高い伸びを示しました。新型コロナワクチン接種の進展で、個人の消費活動が活発化。政府の財政支援策での需要拡大もあり、物価を押し上げられる格好となりました。

NY原油の上昇もあってガソリンの小売価格が上昇(EIA調査による全米全種平均価格は2月の1ガロン当たり2.501ドルから2.810ドルへ12.4%高、CPIでの計算ベースでも前月比9.1%の上昇)したことも、物価上昇に寄与した形です。

変動の激しい食品やエネルギーを除いたコア部分でも+0.3%としっかり伸びています。家賃や自動車保険料の上昇などが寄与。コロナ禍の落ち着きを受けてリクリエーション関連の需要が伸びて価格を押し上げたところも見られました。

前年比では2018年8月以来となる+2.6%とこちらも好結果に。パンデミックが始まったことで、比較対象元である2020年3月の物価が弱めに出ていたことも、前年比を押し上げています。

米国のインフレーターゲットの対象はCPIではなく、PCEデフレーターですが、変化傾向は似通るため、発表が早いCPIに注目が集まります。実際3月のPCEデフレーターも前年比2.3%と、CPI同様に2018年8月以来の高水準となりました。

米FRBは一時的に物価がターゲットである前年比2.0%を超える可能性に言及しており、その状況でも現行の緩和政策を維持する方針を示しているため、こうした物価の上昇の相場への影響は限定的なものにとどまっています。

ただ、隣国カナダが先月の中銀金融政策会合で量的緩和の縮小を発表。さらに今月6日の英中銀金融政策会合(MPC)で、英中銀が量的緩和における週ごとの債券購入額をそれまでの44億ポンドから34億ポンドに減額(英中銀は運用上の変更であり政策スタンスの変更ではないと主張)するなど、世界的に量的緩和策の見直しが広がる中で、米国も今後のテーパリングに向けた動きが市場の注目事項となっています。

物価の上昇はテーパリングに向けた動きに追い風となるため、当面は米物価動向への注目が高まりそうな状況となっています。

今回の予想は前月比+0.2%、前年比+3.6%。3月から4月にかけてはガソリン価格の上昇が緩やかになっていること(EIA調査で2.810ドルから2.858ドル)や、前回があまりにも高かったこともあり、前月比では落ち着いた水準ですが、プラス圏を維持。前年比は節目となる2.0%どころか3.0%も超えての大幅上昇が見込まれています。これはパンデミックを受けたロックダウンが全米各地で本格化したことにより、比較対象である2020年4月の物価がかなり弱くなっていたこと(前月比で-0.8%)が要因です。食品とエネルギーを除いたコアは前月比が3月分と同水準に+0.3%、前年比が+2.3%の予想になっています。コアでも前年比は2.0%を超えてきました。

比較対象元がかなり弱かったという特殊事情もあり、予想前後の数字となった場合の市場の反応は限定的にある可能性があります。ただ、インパクトとして前年比3.6%はかなりのものだけに、ドル買いが強まる可能性も。

なお、市場では参加メンバーによる経済見通し(SEP)が発表される回にあたる次回6月15

日、16日のFOMCか、8月後半に開催予定のカンザスシティ連銀による経済シンポジウム(いわゆるジャクソンホール・シンポジウム。ジャクソンホールでの開催ではなく昨年同様にオンラインになる可能性はありますが)において、パウエル議長から今後のテーパリングに向けた動きが発表される可能性を意識しています。物価の力強い上昇はこうしたテーパリングに向けた市場の期待感を後押しする形で、ドル買いにつながる可能性があります。

翌13日の米生産者物価指数(PPI)、14日の米小売売上高、鉱工業生産(いずれも4月)なども合わせて要チェックです。PPIはCPI同様に前年比+5.8%、同コア前年比+3.7%とかなり高め予想に。前回10か月ぶりの高水準となる前月比+9.8%となった小売売上高は、さすがに伸びが鈍るもの前月比+1.1%が見込まれています。

#### 山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行(旧ナショナルウェストミンスター銀行)移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ(現ミンカブ・ジ・インフォノイド)グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。(社)日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

---

#### <免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

#### <著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。